

平成24年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

変革・・・リニア新幹線時代の旅

前館長 矢部 保 雄

リニア新幹線は名古屋までの途中駅の場所について、地元との結めの最終時期に入っている。いよいよリニアが現実のものとなりつつある。

江戸と明治を「十九世紀日本」として連続性で捉え、内発的近代の可能性を提言した島崎藤村（1872～1943）の文明論集の中に交通の変革に関する一文がある。

「わたしたちはひたすら前進する力の速さをたよりとして、目的とするところへ到着することのみ考えるようになった。」

「こんなにわたしたちの生活は変わりつつある。わたしたちが現にこの世の旅から学ぶものは、これを過去の人たちに比べたら、何という大きな相違だろう。」

松尾芭蕉の奥の細道を引き合いに出している。

「舟の上に生涯を浮べ、馬の口をとらへて老を迎ふるものは、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。」・・・と。

高橋千鶴破著「江戸の旅人」には徒歩が基本の江戸期の旅とある。

さらに時代を遡る755年の防人の歌。

「赤駒を山野に放し捕りかて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ」

防人は馬で行くことを許されていたから、せめて速い旅路を馬で行かせたいのが妻の心だが、おりから放牧の時期で多摩の横山の道を歩いてゆかせねばならないのかという意味である。防人たちは今日とちがって東国から難波までの陸路、難波からの海路での太宰府、壱岐、対馬への旅、それは並大抵ではなかつたろう。

辞書には「旅は住んでいるところを離れ、よその土地を訪ねること、名所旧跡を訪ねたり、未知の場所にあこがれて、また、遠方への所用のため、居所を離れること。」とある。

テレビの「速くへ行きたい」のレポーターとして活躍した渡辺文雄氏は、その著「わたしの旅人生・最終章」の中で、次のように述べている。

「人はなぜ旅にでるのか？それは出会いであります。美しい風景との出会い、美味・珍味との出会い、暖かいもてなしとの出会い、つまり人との出会い。

単に移動をするなら成るべくはやい方がいい。が、旅という特別な世界という事になると、あながちそうとは限らない。移動の時間もまた、大事な旅の一部である。その時に欲しいのは程の良いスピードである。一番スピードの早い航空機から見えるのは、地上の地図地形。運の悪い時には曇りだけという時もある。そういう時の方が多い。

新幹線の車窓から見えるのは地図地形ではなく風景である。だが、その風景は風景どまり。」・・・と。皆さん、旅をしていますか？それはどのような旅でしょうか。旅は暮らしの句読点。忘れかけていたものに出会うことができます。

昔、青森駅まで列車で行き、青函連絡船に乗り換えて北海道に渡ったことがありました。青森駅は終着駅でした。終着駅は始発駅という言葉があります。私は三月末で終着駅につき定年退職となりました。三年間大変お世話になりました。宮川会長さんはじめ友の会の皆様との出会いに恵まれ、良い思い出ができました。皆様のこれまでの御支援・御協力に心から感謝申し上げます。「変革」という点では解決できなかった課題もあり、忸怩たる思いも残りますが、後任の穀場（せんば）さんに引き継ぎましたので、引き続き「埼玉県立歴史と民俗の博物館」をよろしく願います。椿、鮎、轟・・・春です。始発駅から新たな旅にでます。感謝！！

友の会トピックス

1 博物館の人事異動について <教務略>

<退職>

- ◎矢部保雄 館長一総合事務局 ◎中島 宏 主席学芸主幹
◎三田村佳子 (常設展示担当) 学芸主幹 ◎山本修康 (資料調査担当) 学芸主幹

<転出>

- ◎藤元信隆 (管理各担当) 副館長一加須げんきプラザ 所長
◎浅野晴樹 (学芸各担当) 副館長一さきたま史跡の博物館館長兼嵐山史跡の博物館館長
◎依田 透 (総務・施設担当) 担当部長一総合教育センター 担当部長
◎桑原順夫 (総務担当) 主任一上尾福高校 主任
◎高橋幸夫 (施設担当) 担当課長一総合技術センター 主任工事検査員
◎矢部廣和 (施設担当) 主任一吉川高校(定) 担当課長
◎二階堂 実 (企画担当) 学芸主幹一自然の博物館(川の博物館勤務) 副館長兼主席学芸主幹
◎山田昌紀 (企画担当) 主任一南部教育事務所 主任
◎宮 昌之 (学習支援担当) 学芸主幹一さきたま史跡の博物館 学芸主幹
◎西口由子 (特別展示担当) 主任学芸員一生涯学習文化財課 課付 (けやき文化財団派遣)

<転入>

- ◎越場正人 館長一南部教育事務所 所長
◎藤野龍宏 (総務・施設) 教育主幹一市町村支援部 部付 埋蔵文化財調査事業団理事長
◎佐藤敏光 (総務・施設) 担当部長一加須げんきプラザ 担当部長
◎井原 伸 (総務担当) 主事一西部教育事務所 主事
◎増茂直人 (施設担当) 担当課長一都市整備部 設備課 主任
◎吉野修平 (施設担当) 主事一浦和西高校 主事
◎鈴木秀雄 (企画・学習支援担当) 主席学芸主幹一嵐山史跡の博物館 学芸主幹
◎内田幸彦 (企画担当) 主任学芸員一生涯学習文化財課 主査
◎小林 剛 (企画担当) 主事一本任高校(定) 主事
◎内山典代子 (企画担当) 学芸員一臨時的任用
◎平井悠一 (学習支援担当) 主任一川口・鳩ヶ谷小学校 教諭
◎前島俊介 (学習支援担当) 主任一上尾・芝川小学校 教諭
◎西口正純 (展示担当) 学芸主幹一さきたま史跡の博物館 学芸主幹
◎中山浩彦 (展示担当) 主任学芸員一生涯学習文化財課 課付 (けやき文化財団派遣)
◎森 龍 (展示担当) 学芸員一臨時的任用
◎大久根 茂 (資料調査・活用担当) 学芸主幹一生涯学習文化財課 主幹 (さいたま文学館勤務)
◎佐藤美弥 (資料調査・活用担当) 学芸員一新採用

<館内配置換>

- ◎井上尚明 (学芸各担当) 副館長一(企画・学習支援担当) 主席学芸主幹
◎川上由美子 (展示・資料調査・活用担当) 主席学芸主幹一(学習支援担当) 学芸主幹
◎科根川草彦 (学習支援担当) 学芸主幹一(常設展示担当) 学芸主幹
◎大和 修 (学習支援担当) 専門員兼学芸員一(資料調査担当) 専門員兼学芸員
◎杉山正司 (展示担当) 学芸主幹一(特別展示担当) 学芸主幹
◎大明 敦 (展示担当) 主任学芸員一(特別展示担当) 主任学芸員
◎渡 政和 (展示担当) 主任学芸員一(常設展示担当) 主任学芸員
◎榎部 武 (展示担当) 主任学芸員一(企画担当) 主任学芸員
◎池田伸子 (展示担当) 主任学芸員一(資料調査担当) 学芸員
◎根ヶ山泰史 (展示担当) 学芸員一(特別展示担当) 学芸員
◎瀧木賢治 (展示担当) 学芸員一(常設展示担当) 学芸員
◎小野敏信 (資料調査・活用担当) 専門員兼学芸員一(学習支援担当) 専門員兼学芸員

<任期満了>

- ◎栗原芳典 (企画担当) 主事
◎増山聖子 (学習支援担当) 学芸員
◎大和田 龍 (学習支援担当) 学芸員

2. 今後の友の会のイベントスケジュール

- ・4月30日(月・祝) 友の会講演会「関東における農耕社会の成立」
講師：明治大学教授 石田日出志先生 <大至急、ハガキにてお申込みを>
- ・5月26日(土) 友の会講演会「土器・陶磁器から見た日本の中世」
講師：さきたま史跡の博物館館長兼嵐山史跡の博物館館長 浅野晴樹氏 <本ニュースでお申込み方法発表>
- ・6月<詳細未定> 友の会見学会「国立歴史民俗博物館と佐倉市の史跡をめぐる」～バスツアー～
- ・7月<詳細未定> 友の会講演会「平家と武蔵」
- ・8月3日(金) 友の会・共催講演会「古事記編さん1300年記念」
講師：島根県神社庁 備田剛志氏
- ・8月5日(日) 友の会見学会「脚折雨乞行事」
鶴ヶ島市に江戸時代から伝わる4年に1度の降雨祈願の行事を見学します
- ・8月<詳細未定> 友の会見学会「出土品展と東松山市の史跡をめぐる」 ～バスツアー～
さきたま史跡の博物館での23年度県内出土品展と東松山市の遺跡を見学
- ・9月<詳細未定> 友の会講演会「朝鮮通信使と武蔵」または「埼玉の渡来人」

3. 当会イベントのお申込み方法について

原則としては、講演会は「往復ハガキ」によるお申込みでお願いいたします。ニュースで詳細発表後にお早めをお願いいたします。少し間をおいて、一般の方々にもイベントの実施を公開し、先着順とします。見学会は会員を対象としますので、「通常ハガキ」によるお申込みとなります。ご返事はいたしませんがお申込みいただければ、「即」参加可能とお考えください。往復ハガキでのお申込みは事務負担が多くなりますので、お許してください。

4. ご協力をお願いすること、ふたつ！

- ◎4月は新しい生活が始まる月です。お友達に、当会へのご入会をおすすめくださるようお願い致します。
- ◎友の会の「サポーター」になってください。受付やニュース発送のお手伝いに、手をあげてください。
友の会発展のために、あなたのサポートが必要です。博物館の友の会受付へ、お声かけください。

24年度のご入会、ご継続 ありがとうございます。心より、お礼を申し上げます。
ぜひ、当会イベントへ、今後ともご参加いただき、「友の会」をお楽しみください。

土器・陶磁器から見た日本の中世

中世という時代は残された文書によって、すべて解明できるのだろうか。人々の暮らしも、英雄たちの活躍も、土器や陶磁器といったモノや土のなかに埋もれた遺物の研究によって、真実のすがたが浮かんでくるのです。では、その研究者はモノ、遺物のどこを、何を、見ているのか？中世考古学を切り開く浅野先生のお話を楽しみましょう。

講師：埼玉県立さきたま史跡の博物館館長・嵐山史跡の博物館館長

浅野晴樹先生

日時：平成24年5月26日（土）

午後1時半～3時

場所：埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

東武野田線・大宮公園駅下車5分

ご参加無料

ご参加のお申込みは、住居/カギに住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号・講演会の名前をご記入のうえ、5月21日（月）までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。〈裏面にご住所・お名前をご記入ください〉定員150名。オーバーの場合は先着順とし、その時点で締め切らせていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

県民に親しまれる魅力ある博物館づくりを目指して

館長 銭場 正人

この4月1日付けで県立歴史と民俗の博物館の館長として異動してきました銭場です。「せんば」と読みます。どうぞよろしく願いたします。

先日、友の会の役員の皆さんに就任のご挨拶をしましたところ、宮川会長さんから「JUNO」に一文を書いて欲しいと依頼を受けました。私は子どもの頃から作文が大の苦手でしたので、正直まいったなと思ったのですが、先輩の館長さん方はどんな文章を書いているのかと思い、平成18年7月1日の創刊準備号以来の3人の館長さん方の文章を読みました。「少年時代・考古学・博物館」、「共に歩み、互いに発展する博物館を目指して」、「時代の壁・意識の壁」などなかなか含蓄のある文章ばかりでますます困ってしまったのですが、先輩方の思いや考えを再認識することもできました。

さて、そこで私は何を書いたらいいのかと思ったのですが、まずはオーソックスに私の人となりを知っていただくために自己紹介をしたいと思います。

私は昭和28年生まれで現在58歳。定年まであと2年です。生まれも育ちも大宮の桜木町で、この前、自宅から博物館まで歩いてきましたら、丁度30分で着きました。これからも天気の良い日には歩いてこようと思っています。県庁職員になって36年ですが、私はいつも矢部さんの後を歩いているようで、今回でたぶん4度目の引継ぎとなります。

3月の中頃にある会合で萩元前副館長さんと一緒になった折りに、まだ人事の内示前だというのに「4月からよろしく願いたします。」と言われてしまいました。考えてみると、歴代の館長さんは、全員かどうかは分かりませんが、皆さん本局で文化財の担当課長をなさっているのですね。私も5年も前ですが、生涯学習文化財課長をしていたのでその可能性は大いにあったわけです。私は歴史が好きですし、旅行に行くと必ず遺跡や古墳などを見てまわっていますので、この博物館に異動になり、「ラッキー」と思っています。

歴史と民俗の博物館は、昨年で大規模な改修も一通り終わりました。また、昨年の11月には開館40周年を迎え、まさに今年は矢部前館長さんも言うように「新たな飛躍の年」となるわけです。こんな時に館長になるわけですので、身が引き締まる思いですが、県民に親しまれる魅力ある博物館づくりに邁進し、私なりの成果が残せればと思っています。

1.これからの友の会のイベント

05月26日(土) 当会年次総会(午前10時から。博物館講堂) 事前申込み不要。ぜひご参加を!

講演会「土器、陶器から見た日本の中世」(午後1時半～。博物館講堂) ⊛

講師: 埼玉県立さきたま史跡の博物館・嵐山史跡の博物館 館長 浅野晴樹先生

＝中世は文書の世界ではない。歴史の解明には考古学の参加も必要。土器、陶器で中世史の謎に迫るお話＝

06月9日(土) 見学会「国立歴史民俗博物館と佐倉市の史跡をめぐる」 ⊛

企画・案内: 友の会・理事・サポーターA(斉藤)グループ

07月15日(日) 講演会「平清盛と武蔵」

講師: 東京大学史料編纂所・情報学府 教授 本郷和人先生

＝大河ドラマの主人公と武蔵の関係は? ドラマの時代考証にあたっておられる本郷先生のお話＝

08月3日(金) 講演会「出雲神話と古代文化の点と線～古事記編さん1300年記念～」 ⊛

講師: 島根県神社庁 錦田剛志先生

＝古事記編さん1300年という今年、出雲から講師を迎えて、神話に表現された古代文明のお話を聴きましょう＝

08月5日(日) 見学会「脚折(すねおり) 雨乞行事」

＝鶴ヶ島市に伝わる4年に一回しか行なわれない雨乞い行事を、見に行きましょう＝

08月(日程未定) 見学会「出土品展と東松山市の史跡」

＝昨年一年に、県内で出土した遺物の展示が行なわれるさきたま史跡の博物館を見学し、三角縁神獣鏡の出た東松山市の史跡を巡ります＝

☆上記のイベントについて、⊛以外は、まだお申込みの受付をしておりません。このニュースで詳細を
発表後にお願いいたします。「講演会は往復ハガキ、見学会は通常ハガキ」を厳守してください。

2.友の会サポーターさん、募集中。あなたもぜひ!

4月以降、理事やサポーターをおやめになる方もありまして、欠員が生じております。ぜひ、あなたもサポーターになってください。お願いしたいことは、土日祭の博物館友の会窓口での受付などです。一度、友の会の受付へお立ち寄りいただき、「どういことをするのか?」を、お聞きください。

友の会は名のとおり、友達が集まってつくる会です。そして、受益するひとだけでは、会は成り立ちません。お近くの方、お時間のある方! 名も知らないお友達のために、ご奉仕くださいますよう、お願いいたします。

◎総会議案について

当会では、5月26日(土)午前10時から、博物館講堂で、24年度総会を行ないますが、その議案の一部をご紹介します。ぜひ、当会の運営にご関心を深めていただき、ご出席くださるよう、お願いいたします。

平成23年度活動報告

() 内は参加者数

1. イベント

- 4月24日(日) 講演会「万葉集の成立」 (95)
國學院大學講師 城崎陽子氏
- 5月29日(日) 講演会「ごぜ唄語り」 (120)
お話・演奏 月岡祐紀子氏
- 6月4日(土) 見学会「古代・先進の上毛・探索」 (45)
当館主席学芸主幹 井上尚明氏
- 7月23日(土) 講演会「終末期の古墳とは？」 (127)
群馬大学講師 右島和夫氏
- 8月20日(土) 見学会 「出土品展と太田天神山古墳」 (41)
当館元学芸部長 駒宮史朗氏
- 9月18日(日) 講演会 「邪馬台國・纏向遺跡・箸墓古墳」 (150*)
明治大学名誉教授 大塚初重氏
- 10月1日(土) 講演会「武蔵の国学者たち」 (70)
跡見学園女子大学講師 中川和明氏
- 11月13日(日) 見学会「芝山はにわ祭りと房総風土記の丘」 (54)
- 12月3日(日) ミニ講演会「博物館友の会はいかにあるべきか」 (23)
常磐大学大学院准教授 塚原正彦氏
- 12月11日(日) 講演会「日本古代王権と災害」 (95)
専修大学教授 荒木敏夫氏
- 1月15日(日) 見学会「白洲正子の武相荘・香山園・日本民家園」 (52)
- 2月17日(金) 見学会「冬楽会 立正大学博物館・松岡藤造翁・嵐山史跡の博物館など」 (46)
- 3月27日(月) 見学会「浅間下遺跡」 埼玉県立埋蔵文化財調査事業団発掘調査中 (52)
- 3月17日(土) 講演会「北武蔵の戦国時代」 (150*)
埼玉大学名誉教授 田代 脩氏

2. 花王・コミュニティミュージアム・プログラム2010の実施

(1) 「まち調べワークショップ」事業

- ・事前準備 岩槻市史などの参考書調べ。教委の文化財担当者の講話。資料館での調査。
- ・グループ活動 「モノ」「遺跡・遺物」「岩槻城」「建物」「地形・自然・交通」の5グループで「まち調べ」を2月～4月に各4回程度行なう。メンバーは友の会理事、サポーター、応募の一般会員有志。
- ・地元の女流ドキュメンタリー映像作家等を講師としてビデオ制作を学ぶ。
- ・グループが集合し、コンセプトについて、討議。「他との差別化をはかるため、日光御成街道をテーマとし、歴史に親しんでいただくことから、博物館への来館促進をはかる」ことをコンセプトと決定。
- ・撮影・編集・ナレーション採り・映像作家の監修を経てビデオ完成。9月25日におひろめ試写会。

(2) 「城下町・街道」散歩事業

- ・地元観光ボランティアガイド会とのコラボによる市内散歩を5月に実施（参加47人）。
- ・ビデオ完成を前に一般市民を対象として9月4日、11日に街道散歩を実施（参加計120人）

(3) 「よみ・書き・つくり隊」事業

- ・街道歩きイラストマップを製作。ビデオおひろめ試写会にて、さいたま市立博物館元館長による「日光御成街道」講演、民話かたり「いなわ会」による伝説の読み聞かせ、折り紙製作のイベントを実施（参加計103名）

(4) DVDの配布

- ・区内小学校、観光ボランティアガイド、図書館などへの配布。埼玉新聞の記事取り上げにより、約50件の配布希望をいただく。

(5) 評価

- ・手作りの博物館のプロモーションビデオにしては、よく出来た。
- ・実際の来館促進、知名度アップにも多少ながら、貢献したものと評価したい。

3. その他

- (1) これまでどおり、会員対象の会報を毎月1回発行 博物館の行事チラシなどを、その都度、同封。
- (2) 理事・サポーター会議を毎月1回開催。
- (3) 理事・サポーターによる友の会受付を土・日・祭に実施。
- (4) 当会ブログの継続

平成23年度収支報告書

自 平成23年4月 1日
至 平成24年3月31日

収入の部			
項目	予算高	決算高	備考
年会費		794,000	資料-I
半年会費		28,000	資料-I
事業収入		1,478,829	資料-Ⅲ・Ⅳ
雑収入		59,589	
合計(ア)		2,360,418	
支出の部			
項目	予算高	決算高	備考
運営費関連			
会議費		66,711	
旅費交通費		23,180	
備品・用品		224,973	
通信		466,235	
印刷		14,710	
手数料		1,005	
小計		796,814	
事業費関連			
講演会		355,939	
見学会		996,157	
イベント		578,911	
小計		1,931,007	資料-Ⅲ・Ⅳ
負担金		97,500	資料-I
震災義援金		100,000	
合計(イ)		2,925,321	
当期収支残高(ア-イ)		-564,903	(ウ)
前期繰越金		1,544,872	(エ)
前受金		760,000	(オ)
次期繰越金(ウ+エ)		979,969	(カ)

資金管理明細	
(24/3/31現在)	
預金残高	1,113,448
振込口座残高	534,000
現金	72,523
未収金	20,000
合計(オ+カ)	1,739,969

上記の通り平成23年度収支についてご報告いたします。

平成24年3月31日

会計

中村 均



上記報告書について、出納簿、領収書、収支決算書を厳正に会計監査を実施した結果
適誤なく適正に執行された事を証します。

監事

青山 定義



監事

平野 久雄



4. 平成 23 年度にお手伝いをいただいた方

◎A グループ (齊藤文孝・副会長)

齊藤文孝 (副会長・見沼区) 青山定義 (監事・川口市) 大野典司 (南区)
黒澤勝利 (西区) 小林都子 (宮代町) 齊藤紀子 (大宮区) 筑井信明 (朝霞市)
手塚 充 (大宮区) 徳永憲郎 (桶川市) 西本豊司 (中央区) 橋本九二男 (北区)
広重孝子 (見沼区) 松岳俊一 (岩槻区)

～以上、特記のない方は理事～

＝サポーター＝

岩井千枝子 (大宮区) 片岡節子 (戸田市) 加藤陽子 (北区) 長島 勇 (荒川区)
西島 孝 (越谷市) 馬渡憲子 (北区) 見富千恵子 (大宮区) 箭吹順子 (北区)
渡辺由美子 (久喜市)

◎B グループ (岩井隆興・副会長)

岩井隆興 (副会長・大宮区) 石田 仁 (上尾市) 上田彰一郎 (大宮区)
金子清敏 (大宮区) 金子慶子 (岩槻区) 金子 榮 (伊奈町) 小板橋美紗子 (見沼区)
櫻井傳次郎 (大宮区) 新開一男 (蓮田市) 滝沢由美子 (北区)
町田富夫 (大宮区) 山口清光 (見沼区)

～以上、特記のない方は理事～

＝サポーター＝

石随千恵子 (見沼区) 鈴木正子 (中央区) 乗田真知子 (川越市) 新谷正夫 (中央区)
高瀬敏男 (大宮区) 坊野清之 (越谷市) 水村陽子 (鴻巣市) 矢内喜美江 (大宮区)

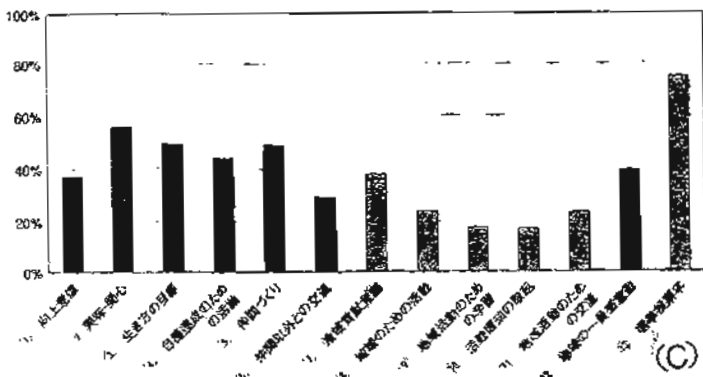
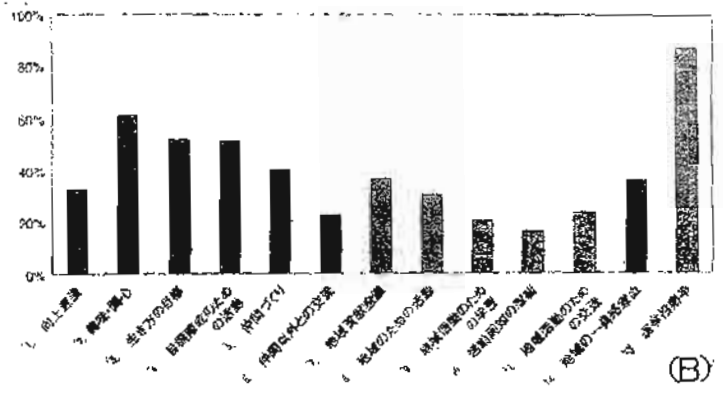
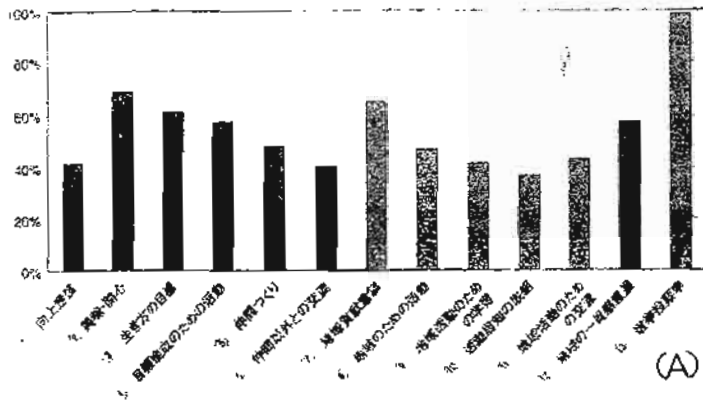
◎その他

宮川 進 (会長・越谷市) 中村 均 (副会長・草加市) 齊藤 亨 (理事・桜区)
平野久雄 (監事・川口市)

＝サポーター＝ 畑 方従 (緑区) 元木 孝 (吉見町)

昨年度、ご協力いただきました「友の会会員アンケート」の結果について

法政大学教授・金山喜昭先生からのご依頼によるアンケートですが、このたび刊行された先生の著書「公立博物館をNPOにまかせたら」(同成社刊 1900円+税)に、同時に行なわれた「野田市立博物館の利用度の高い人たち」、『野田市内の人たち』へのアンケートとあわせ、その結果が掲載されました。



上左は「野田市立博物館の利用度の高い人たち」(A)です。野田ガイドの会、自主研究グループ、まちなみ研究会などのメンバーです。対象者79人。

上右は「ある県立博物館の友の会の人」(B)と、紹介されていますが、当会の会員の方です。11月の会員419人中、216人からのご回答をいただきました。回収率52%

下(左)は「野田市内での市民対象のアンケート」(C)。うち、150人は、図書館、公民館、ホールなどがある市複合施設の利用者です。対象者数239人

◎金山先生の分析(上記著書より)

○この「野田市立博物館の利用度の高い人たち」は、平均的に、毎月2回以上は博物館を利用している。「自分が何に興味、関心があるのか」を、考えている人たちが70%近くおり、「生き方の目標」やそのための具体的な活動に取り組んでいる人たちも60%近くにのぼる。「地域貢献意識」も60%台で最も高い。選挙(2011.4統一地方選)にも大部分の人が投票行動をとっている。

三者のなかで最もキャリア意識(人の生きてきた道程や生き方についての意識)が高い。〈自分の人生や生き方〉と、〈地域活動〉の項目の数値に大差がないことが注目される。

博物館の利用により、キャリア意識やまちづくりの意識が高まったことを示しているのではないだろうか。

また、「博物館において、それまでの生涯で知り合うことになかった異なるキャリアの人たちとの出会いがあったか」どうかについて、Aは60%ほどが、そうした出会いがあったと答えているのにくらべ、Bでは20%台と低くなっている。

Aでは博物館の事業に主体的に関わる経験をもっているし、グループごとの親しい交流関係があることが影響しているのではないだろうか。

○「野田市内での市民対象のアンケート」は、図書館、公民館、ホールを含む市複合施設の利用者が全体の71.1%を占めており、一般市民よりもキャリア意識の高い人たちだと想定されるが、Aにくらべると地域活動などの項目の数値は低い。

○「博物館の友の会の人」は、Aと類似している。〈自分の人生や生き方〉に関する項目が、Bよりも総じて高い。

◎このアンケートから、友の会の今後を考える～

OAは、アンケートの対象として、はじめから「選抜」された方々であり、「友の会」会員一般(B)とは、同じ土俵でくらべられるものではありません。しかし、今後の友の会のあり方に対し、次のようなヒントを含んでいるように思われます。

- ・友の会、そのものは、これまでどおり、博物館を「応援する」趣旨に賛成された方々を会員とし、みんなに「さらに」博物館に親しんでいただけるようなメニューを提供する方向を練ることでよいのでは、と思われます。
- ・しかし、高齢化と趣味、嗜好の多様化に対応し、そのような会員のニーズにも応じて行く必要があります。
- ・退職して、自宅にこもって、「さあ、何をしてよいか」分からない方々も多いようです。
- ・すくれて、おいしい定食メニューのほか、専門的なメニューも用意する必要があるのではないのでしょうか。
- ・「人生、生き方、地域活動、仲間との交流」などという大上段に振りかぶったイベントを用意するのではないが、結果として、会員のところに、そういう実りが結ぶようなものを、友の会として提供してゆくことができれば、これこそ、究極の「友の会」ではないかと思われます。

国立歴史民俗博物館と

佐倉市の史跡をめぐる旅

佐倉というのは、正直、行くのがなかなか、おっくうなところですよ。行くとすれば、こういう風に同好の友人たちとバスツアーで行くのがイチバン。宗吾霊堂までも含めた佐倉の史跡探索のほとんど完全版。

日時 平成24年6月9日(土)

集合 午前8時 大宮駅西口 ソニックビル西側

コース 大宮＝歴博(滞在2時間)＝<昼食>＝

佐倉順天堂記念館＝旧堀田邸＝武家屋敷群＝宗吾霊堂

＝大宮帰着 <6時30分頃予定> 理事実行委員・斉藤グループ主宰

○佐倉順天堂記念館～日本近代医学発祥の地 ○旧堀田邸～佐倉藩・最後の藩主・堀田正倫邸宅 ○武家屋敷群～城下町佐倉のおもかげ ○宗吾霊堂～任政を将軍に直訴した佐倉宗吾の供養のためにつくられた

参加費 6,000円(バス・昼食・入館料等)

お申込みは、ハガキ(ハガキお出しの方はご参加いただけます。往復ハガキ厳禁)に住所・氏名・電話番号・会員番号・参加イベント名を明記し、5月28日(月)までに〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 斉藤文孝へ。会員限定ですが、ご家族、お友達は参加可。同じバス、隣席などをご希望の場合は連名で。集合場所地図ご希望の場合はハガキに付記のこと。お問合せ、間際、当日の緊急電話 090-7729-1711 橋本

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年6月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

自己流：博物館の利用法

理事 西本豊司（中央区）

博物館に特別な親近感を抱いてはいなかった普通の人間の一例として、私自身の博物館との関わりを振り返り、博物館の利用形態についても考えてみました。

特に考古学好きでもなく、歴史に造詣が深い訳でもない、平凡な定年近くの一市民が大宮近くに移り住んで、大宮公園を散歩コースの一つとしたのが、博物館との出会いでした。従来の仕事人間からの脱却を目指していた6～7年前から、山歩きや楽器の演奏やサッカー応援に手を染め始め、その延長線上で、友の会に入会しました。博物館自体への思いは、大宮公園内の立地環境とそれと調和する前川國男設計の建築のしっくり感という感覚だけの不純なものでした。

友の会への入会から6年、講演会や見学会等の催しに時々参加して、関心の赴くまま、つまみ食いの的に未知の新しい話や場所に接するのも楽しいものでした。しかし、若い時期も含めて埼玉県在住期間が長くなるにつれて、各地に移り住んだ私にとっての第二の故郷、或いはそれ以上の土地にさえなり得るこの地を文化面でも盛り上げたいという思いも徐々に大きくなりました。何が特徴かを一言では言えない埼玉という土地柄は、その多様性にこそ真髓があるのでしょうか。先祖代々住み着いた人達の中に移住者が次々に移り住んで、その混成集団が新たな郷土愛の芽を見つけていける場、その拠点に博物館が相応しいのではないかと今は思います。

多様な郷土愛こそ、本物の愛国心を育てるものであり、さらに国境を越えて人間同士のつながりを作り出す無定形の単位でしょう。私達はその単位を博物館を拠点にして、しなやかに創造的に表現していく。その産物は、・・・博物館から出発する妄想は、どんどん広がっていきます。

気負わずに言えば、博物館利用の基本形態は、歴史の垣根を越えた面白さを感じることはないでしょうか。特に、時間と空間の広がりや自由を遊び回れる愉しみは、ある意味で、宇宙や地球を探る思いにも通じるかと思えます。一昨年の「五人囃子と能楽」と、昨年の「岩槻の日光御成り道」では、遊びの場を実践したという実感がありました。

最近のTVでよく耳にする梁塵秘抄の「遊びをせんとや生まれけむ・・・」の空気が現代にも流れているのでは？オトナのお洒落な遊び場として、博物館を大いに活用しようではありませんか。

友の会トピックス

1. 当会 24 年度総会が終わりました

5月26日(土)、当会24年度総会を行ない、皆さまのご協力により、各議案を可決、正式に新しい年度に入り、諸計画を実行することとなりました。本年度の友の会の活動につきましても、ぜひ、これまで以上のご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

2. これからの友の会のイベント

07月15日(日) 講演会「平清盛と武蔵」 ⊙

講師：東京大学史料編纂所教授 本郷和人先生

08月 3日(金) 講演会「出雲神話と古代文化の点と線～古事記編さん1300年記念」 ⊙

講師：島根県神社庁 錦田剛志先生

08月 5日(日) 見学会「脚折(すねおり)雨乞行事」 ～最寄り駅集合・解散の予定～

＜鶴ヶ島市に伝わる4年に一回しか行なわれない雨乞い行事を、見に行きましょう＞

08月(日程未定) 見学会「出土品展と東松山市の史跡」 ～バスツアー～

＜昨年に関内出土した遺物の展示が行なわれているさきたま史跡の博物館を見学し、その後、三角縁神獸鏡の出た東松山市の史跡を巡ります＞

⊙印は、ご参加募集中のイベントです。それ以外のものについては、詳細未定ですので、ご応募はお待ちください。このニュース「JUNO」にて、詳細をお知らせしてからのご応募をお願いいたします。講演会のお申込みは往復ハガキ、見学会は通常ハガキで、お願いいたします。お問合せなどについては、博物館には常駐の担当者はおりませんので、090-4139-2740 宮川へ、お願いいたします。

3. 博物館のイベント <電話048-645-8171>

○博物館・館内消毒作業のため臨時休館 6月18日(月)～25日(月)

○博物館の企画展 「にほん美術夏期学校」 7月14日(土)から9月2日(日)

○歴史民俗講座「狩野派と橋本雅邦～栄枯盛衰の絵画史」 6月16日(土)13:30～15:00

申込み電話受付中 参加無料 150名

○ミュージアムトーク「大塚3号墳の石室構造」 6月17日(日)13:30～14:00 当日受付・先着順 30名

○ものづくり工房「藍の絞り染め・ストール作り」 7月11日(水)、20日(金) 毎回10名 1500円 6月12日から受付

4.あなたのご意見、ご希望をお教えてください

本年度に取り組みたい活動として、〇ミニ講座の実施と 〇クラブ活動の試行、というものがあります。これにつきまして、会員の皆さまのご意見、ご希望をお教えいただきたいのです。

(1) ミニ講座の実施

当会の講演会といいますと、100人前後がお集まりいただくことがイメージになっています。もちろんそういう講演会も重要であり、必要です。しかし、たとえば、15~30人位が集まっていただけのようなものであれば、会のイベントとして取り上げてもいいのではないかと思います。

具体的なイメージとしては、〇若い学会担当者の夢をきく 〇学説の争点をきく 〇学会のタイムリーな話題をきく~などがあり、それを毎月とか、2か月に1回とか、継続したい思いです。

いずれにしても、会員であるあなたが、どういうテーマの話を聞きたいか？ ということをお教えいただいで、それを出来るだけ、取り上げさせていただこうと思っています。

(2) クラブ活動の試行

10人ぐらいの会員が同じテーマを勉強しよう~と集まれるなら、それをクラブとして、公認し、ニュースを通じて、他の会員の方に呼びかけるとか、講師のお願いのお手伝いをするとか、費用を補助するとか~を考えてはどうか、というものです。

例えば、遺跡探求会、古墳クラブ、民俗行事を訪ねる会、古文書研究会、懐かしの映画鑑賞会、懐かしのレコードコンサート会~など、歴史や民俗に関係あれば、どんなテーマでもよいのではないのでしょうか。

◎会員の皆さまへのお願い

〇ミニ講座として、こういうテーマを取り上げてほしい 〇こういうクラブ活動をしたいが、同好のヒトを募ってほしい そんな、あなたのご希望をハガキで、お教えいただけませんか。

本当なら、アンケートのハガキでも同封して、ご意見、ご希望をおききするのが、スジかも知れませんが、この際、拙速をお許しいただいて、皆さまのご意見、ご希望をお寄せいただくよう、お願いを申上げる次第です。

ハガキ、封書で、ぜひ、よろしく、お願いを申し上げます。

あて先：〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

「ミニ講座担当」または「クラブ活動担当」へ。おききしたいことがあるかも知れませんが、お電話番号、FAX番号をお書き添えください。

大河ドラマの時代考証にも、あたっておられる
本郷和人先生に、あなたの住んでおられる
武蔵と平清盛の関連をおうかがいしましょう

平 清盛と武蔵

講師：東京大学資料編纂所教授 本郷和人先生

とき：平成24年7月15日（日）午後1時半～3時

場所：埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

＜東武野田線・大宮公園駅下車・5分＞

ご参加無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・

（会員の方は会員番号）を明記し、7月10日（火）までに、〒330-0803 さいたま市

大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

（裏面にご住所・お名前をご記入ください）定員150名。先着順とし、オーバーの場合は締め切らせていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

縄文時代の漆器について

主席学芸主幹 鈴木秀雄

今朝はお味噌汁をお飲みになりましたか。たぶん、漆のお椀であったかと思いますが、この漆器というのは、実は縄文人が発明したものなのです。

博物館に近い寿能泥炭層遺跡からも、縄文人がつくった漆器が106点も出土しています。時期的には縄文中期（約5000年前）から晩期（約3000年前）までの各時期にわたっており、後期中ごろ（約4000年前）のものが最も多く出土しました。器種には、鉢類・壺・皿・椀・注（そそ）ぎ具・杓子などが確認されており、日常生活に用いられた道具とみなしてよいでしょう。

縄文時代に使われた木製の容器には、漆を塗ることが通例として行なわれ、塗布することによって容器の耐久性が高められることを縄文人はよく知っていたのです。漆が塗られる素材は胎（たい）と総称され、その材質が木であれば、木胎（もくたい）漆器と呼ばれます。遺跡から出土したものは、この木胎漆器がほとんどで、他に竹で編んだものを素材とした藍胎（らんたい）漆器が1点ありました。

漆器の素材となる木は非常に限定されたもので、サクラ類・トチノキ・イヌガヤがよく用いられた樹種ですが、鉢類や皿はサクラ・トチノキ、杓子・壺はイヌガヤというように器種によって素材とする樹種を使い分けています。トチノキは木鉢の素材として現在もよく使われており、耐水性のあるイヌガヤは杓子等に適したものといえましょう。塗布する漆には、赤漆と黒漆の2種があります。赤漆には赤色顔料が加えられており、分析によって、それが朱（ HgS 赤色硫化水銀）とベンガラ（ Fe_2O_3 赤鉄鉱）であることがわかっています。漆器はこの赤漆と黒漆を交互に塗り重ねており、なかには8回を数える重ね塗りをした椀もあります。また、容器の内面の塗りの回数や、汁（じゅう）器と思われる椀と杓子の塗りの回数が多いことなど、容器の用途によって塗りを変えるという工夫も施されていました。

ひとつの漆器を作るためには、素材の選択から始まり、加工、漆液の採集、精製、顔料の添加、塗布、乾燥という一連の工程を経ることになりますが、当時の個人や社会がそれだけの熟練と技術体系を備えていたことは確かなようです。

そして、それは今朝飲まれた、あなたのお椀に、つながっていることでもあるのです。

1. これからの友の会のイベント

○7月15日(日) 講演会「平清盛と武蔵」 <申込み受付終了しました>

講師：東京大学史料編纂所・情報学府 教授 本郷和人先生

○8月3日(金) 講演会「出雲神話と古代文化の点と線～古事記編さん1300年記念～」 <申込み受付終了しました>

講師：島根県神社庁 錦田剛志先生

○8月5日(日) 見学会「脚折(すねおり)雨乞行事」 ⊛

＝鶴ヶ島市に伝わる4年に一回しか行なわれない雨乞い行事を、見に行きましょう＝

○8月24日(金) 見学会「出土品展と東松山市の史跡」 ⊛

＝昨年一年に、県内で出土した遺物の展示が行なわれるさきたま史跡の博物館を見学し、三角鯉神獸鏡の出た東松山市の史跡を巡ります＝

○9月(日程未定) 講演会「渡来人・壬生吉志福正」

講師：群馬大学・名誉教授 森田 悌先生

☆上記のイベントについて、⊛以外は、まだお申込みの受け付けをしておりません。このニュースで詳細を発表後にお願いいたします。「講演会は往復ハガキ、見学会は通常ハガキ」を厳守してください。

☆見学会、講演会をお申込みいただいたのちのキャンセルはお早めに、キャンセル待ちの方のために！

2. 今年はいじめて取り組もうとする「クラブ活動」について

友の会の活動の多様化として、取り組もうとしています「クラブ活動」ですが、6月の理事・サポーター会議では、次のようなクラブを作ってはどうか、という意見が出ました。また、「どのようなクラブになるか」、未定ではありますが、いまの段階で「クラブに入会してもいいな」というお気持ちがありましたら、そのことをお葉書で、お知らせいただきたくお願いいたします。あて先は博物館友の会。次のどれに入会したいかをご記入ください。(〒330-0805 さいたま市大宮区高鼻町4-129 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ)

「クラブの仮の案」 ○日本の祭り研究クラブ ○古文書クラブ ○映像クラブ ○発掘クラブ

○塔めぐりクラブ ○古墳めぐりクラブ

3. 「映像クラブ」会員募集

映像に興味のある会員なら、どなたでもご参加いただけます。デジカメ撮影程度の技術で十分。地域の歴史、民俗などを映像化しましょう。勉強会や共同での撮影、上映を行ないたいと思っています。お申込み先 筑井信明、(pu8n-tki@asahi-net.or.jp) Eメールで表題を「友の会映像クラブ入会希望」とし、本文にご住所・お名前・会員番号を記入して、ご送信ください。

4年に1回、

36メートルの巨龍が、

うねる！！

過酷な暑さと長い待ち時間に

耐えられる方のみご参加ください

鶴ヶ島市脚折で4年に1回行なわれる「脚折雨乞(すねおりあまごい)」行事。孟宗竹、藁、葦、熊笹で作られた36メートルもある竜が池を回り、入水する。ぜひ一度は見たい行事ではありますが、8月5日(日)という真夏、日陰は乏しく、見られる場所を確保し、長い時間待たねば、人垣で見えないという見学者には過酷な条件です。あなたのイノチにかかわります。自信があるだけでは、ご参加いただかない方がよろしいかと思われまます。交通傷害保険の適用もありません。

◎平成24年8月5日(日) 午前11時30分・東上線・坂戸駅改札口前集合 ◎駅前から徒歩で30分 ◎12時から・白髷神社で待つ ◎12時30分・渡御の儀はじまる ◎13時・竜が、かつがれ出発 ◎竜は各所をまわるが、それには付かず雷電池へ15分歩く ◎雷電池周辺で15時まで待つ ◎15時・池での神事はじまる ◎16時30分・竜、入水・昇天(解体)

◎東上線・若葉駅へ20分歩く =白髷神社到着後は、原則的に自由行動となります。目印の旗は持参いたします=

◎参加費 100円(資料代)

ご注意 ○食事は弁当など各自ご用意ください。周辺に食堂などありますが、雷電池の場所を確保する時間がなくなります
○付近コンビニで買えないこともありますので、500ミリリットルのペットボトル3本以上をご持参ください
○携帯用の椅子・虫よけ必携です。○芸術写真撮影はこの見学会ではできません。前夜から場所取りする要あり。

ご連絡 ○7月25日(水) 午前10時~12時 博物館・講座室で「脚折雨乞について」の説明をお伺いします。講師は主任学芸員の内田幸彦さん。この説明会に欠席されても、当日ご参加可能ですし、説明会だけの参加も可能です。

お申込み ○7月24日までに通常ハガキで〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-129 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。
お申込みいただければ、ご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

出土品展と東松山市の古代

毎年恒例の「出土品展」～県内における昨年度に発掘された主な遺跡の状況報告、出土品が一堂に会します。友の会も恒例で毎年、見学しています。

そして、今年は、午後から東松山市の古代遺跡の見学を行ないます。昨年、同市で出土の三角縁神獸鏡は現在調査中のため、見ることはできませんが、古代ロマンにあふれる東松山市の遺跡を時間の許すかぎり見てまわりましょう。

ご案内 駒宮史朗先生 (元・埼玉県立博物館学芸部長)

実施日 平成24年8月24日(金)

集合 午前8時・大宮駅西口 ソニックビル西側

午前9時半・熊谷駅南口 ローター

参加費 6,000円(バス代・昼食代など)

◎今年の「最新出土品展」(行田市・さきたま史跡の博物館)は熊谷市箱田氏館跡遺跡出土のかわいい土偶、いまでもそのまま使えそうな首飾り。鳩山町新沼瓦窯跡から出土の「埼」の字がある奈良時代の瓦。様々な形をした弥生土器。古墳時代の祭祀関連遺物～など

◎東松山市の古代遺跡の見学は ○東松山市埋蔵文化財センター ○県内第2位の大きさの野本将軍塚古墳 ○三角縁神獸鏡を付近で出土した高坂古墳群 ○県内でもトップクラスの古さの前方後方墳・諏訪山29号墳 ○上記展示の「瓦」出土の鳩山町新沼瓦窯跡 (全部まわりきれないこともあります)

お申込み 8月17日(土)までに通常ハガキで〒330-0803 さいたま市見沼区南中野1183-10 斉藤文孝へ。ご返事はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。☆会員限定ですが、ご家族、お友達もご参加いただけます ☆同じバスご希望の場合は連名で。☆前方座席を特にご希望など、ご希望があればご記入ください ☆集合場所地図ご希望の場合もご記入ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年8月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

気仙沼復興支援歌舞伎公演に参加して

理事 山口清光 (見沼区)

埼玉県熊谷市のJR熊谷駅前に、昭和49年10月市制40周年を記念して建立された、地元熊谷郷出身の武将熊谷次郎直実公の騎馬像があります。作者は、長崎の平和記念像と同じ彫刻家の北村西望氏で、寿永3年(1184)の一の谷の戦で、沖の船をめざして、海中、馬をすすめる平敦盛に対して、扇をかざして「返せ、返せ」と呼ばれる直実の馬上姿を表しています。

直実の子孫は、今は全国に散らばっていますが、直実の孫・直宗(奥州藤原氏討伐に功績のあった、直実の嫡男・直家の子)は奥州気仙沼地方(現在の宮城県気仙沼市とその周辺)に領主として下向し、鎌倉・室町・南北朝時代、16代約400年にわたって、この地を治めました。(奥州熊谷氏)

そのためか気仙沼市には熊谷姓が非常に多く、気仙沼市役所によると、熊谷姓の市民は1302世帯3,545人(6月7日現在)で、市の人口の5%強に当たるとのことです。

昨年の東日本大震災では、気仙沼湾から最大21.9メートルの大津波が押し寄せ、沿岸地域は壊滅的被害を受け、死者・行方不明者は1,400人にも達しました。昨年4月、熊谷市民が直実公以来縁の深い気仙沼市に約1,600万円の義援金をお送りしたことがきっかけで、「熊谷歌舞伎の会(平成8年3月発足)」による気仙沼公演の話がすすみ、小鹿野町の「小鹿野歌舞伎保存会」の協力も得て、本年6月の公演が実現しました。

6月24日の公演の前日、市郊外にある直宗一族の菩提寺の宝鏡寺で、直実公800年、直宗公750年の遠忌法要が盛大に行なわれ、当日は気仙沼市民会館(高台にあり、震災の被害なし)で、『一谷嫩(ふたば)軍記』が上演されました。演目は、小鹿野歌舞伎保存会による「須磨浦陣門組打」と熊谷歌舞伎の会による「熊谷陣屋」の二場で、私も熊谷陣屋に梶原平次景高の役で出演させていただきました。

会場は約1,200人の観客で大盛況。終演後、気仙沼市側の事務局長、古谷館八幡神社の熊谷直之宮司(直実から37代目の子孫)は、この公演が地元の被災者に大きな勇気と感動を与え、生きる希望が湧いてきましたと涙ながらに謝辞を述べられ、私達も大任を果たした喜びをかみしめました。市内には、中核の赤岩城をはじめ月舘城など、熊谷一族の拠った城址が残っています。この公演を機に、地元の方々は各城址への案内板を設置、登り路を整備し、赤岩城址には直宗公を祀る祠まで建てられました。公演の翌日、私達はその祠に参拝、気仙沼の復興と犠牲者の方々のご冥福を祈念し、帰途につきました。(熊谷歌舞伎の会・会員)

1.これからの友の会のイベント

○8月24日(金) 見学会「出土品展と東松山市の史跡」

⊛

＝昨年一年に、県内で出土した遺物の展示が行なわれるさきたま史跡の博物館を見学し、三角縁神獣鏡の出土東松山市の史跡を巡ります＝

○9月30日(日) 講演会「渡来人・壬生吉志福正」

⊛

講師：群馬大学・名誉教授 森田 悌先生

○10月(詳細未定) 見学会「入間・飯能の周辺」

なかなか、行くチャンスに恵まれないところに、みんなで行ってみましょう

○11月(詳細未定) 講演会「古代の年代をはかる」

古代の遺物が、いつごろのものであるかを、どのように判定するのか？

○12月(詳細未定) 見学会「東京の古墳を2日で見ると」

東京という都会の中にも、あちこちに古墳があるのです。それを探しましょう

○1月(詳細未定) 講演会「古代の人口をはかる」

古代の人口、それには、あなたの祖先も含まれているのです

○2月(詳細未定) 見学会「桐生、両毛地域をめぐる」

こちら、なかなか行きにくい地域なのですが、いろいろ面白いものが・・・

○2月(詳細未定) 見学会「発掘現場を見る」

毎年恒例の発掘現場の見学会。当会ならではのイベントです

○3月(詳細未定) 見学会「茨城県・茨城歴史館」

関東地方の県立博物館を巡ってきました

☆詳細は未定なのですが、3月まで(冬の時期)に、奈良・京都の仏像拝観ツアーを行なう予定です。

元当館館長で仏像の専門家・林宏一先生が選ばれた「日本の仏像ベスト10」に含まれる仏像を京都・奈良で、まとめて七つは見ようという二泊三日のツアーを考えています。乞うご期待！

☆上記のイベントについて、⊛以外は、まだお申込みの受付をしておりません。このニュースで詳細を発表後にお願いいたします。「講演会は往復ハガキ、見学会は通常ハガキ」を厳守してください。

☆見学会、講演会をお申込みいただいたのちのキャンセルはお早めに、キャンセル待ちの方のために！

2.友の会の新しい活動について

☆ミニ講座の実施について

友の会の講演会というと、100人とか150人とかが、お越しいただく、大きな講演会のイメージですが、すこし小ぶりの講演会もあってはいいのではないかと？ 多数の方のご参加を考えないで、20～30人くらいの方々が希望されるテーマでの講演会を行なうのも、会員の好みの多様化に対応でき、かつ、一般の方々にも、先端的な知識を提供できるのではないだろうか、という趣旨での実施を考えています。

☆グループ活動について

先のニュースで、お知らせしましたところ、例示しましたグループに少しずつではありますが、ご入会のご希望があつまりつつあります。

もう一度、クラブ名の例示をさせていただきますと～

○日本の祭り研究クラブ ○古文書クラブ ○映像クラブ ○発掘クラブ

○発掘クラブ（発掘現場見学） ○古墳めぐりクラブ ○塔めぐりクラブ

このほか、こんなクラブを、みんなで、作りたいというお考えもぜひ、ハガキやFAXなどで、お知らせください。

ご入会のお申込み、新しいクラブのご提案など、お気軽にお申し出ください。

送り先は〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-129 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会、またはFAX(048-975-9139)で、ご連絡ください。

3.急 募

(1) 友の会会計サポーター

(2) 友の会ブログ作成サポーター

上記は、これまでのご担当者がおられなくなって、困っているところです。どの部分だけは、やってあげましょう～というお考えでも、けっこうです。お申し出をお待ちしています。お互いのご意向のすり合わせをさせていただこうとお待ちしています。ご連絡は上記と同じです。

4.一般サポーターも、募集しています

新しく、友の会のお仕事を手伝っていただける方も募集しています。主なお仕事は、土日祭の友の会の受付。二つのグループで隔月に担当していただいていますので、隔月の土日祭のうちの1日をお引き受けいただくだけ。内容については、土日祭に博物館へお越しいただき、受付当番にご遠慮なく、お聞きください。ぜひ、博物館を応援する「あなた」のお手伝いをお待ちしております。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・共催・歴史講演会

渡来人・壬生吉志福正

みぶのきし・ふくしょう。推古天皇のころ、武蔵の国北部へ入植してきた渡来人、壬生吉志氏の戸主・福正は、その計数に明るい特性を発揮し、力を蓄えて、焼け落ちていた武蔵国分寺の七重塔を独力で再建するまでに至った。「壬生吉志」とはどういう氏族なのか。「福正」とはどういう人物であったのか。古代の武蔵を彩る大きなテーマです。

講師 群馬大学名誉教授 森田 悌 先生

開催日時 平成24年9月30日(日) 午後1時半～3時

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

(東武野田線・大宮公園駅下車5分)

ご参加無料 要お申込み お申込みは平成24年9月18日(火)までに住所・氏名・電話番号・会員の方は会

員番号を往復ハガキに明記し、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-2-19埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名になり次第、締め切らせていただきます。(裏面にも、ご住所・お名前をご記入ください)

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

居住環境が歴史を学ぶ心を育んだ

理事 町田 富夫 (大宮区)

私の住まいの西側に高台橋という橋があります。この橋は鴻沼導水路を跨ぐ旧中仙道に架けられた橋です。この橋際には『火の玉不動』と『お女郎地藏』と呼ばれる二体の石仏がまつられています。この石仏には様々な巷説、伝説が伝えられています。

『火の玉不動』の原形は不動明王ですが、ここは大宮宿内で悪事を働いたものの処刑が行われた高台橋刑場跡であり、成仏ができなかった罪人の魂が火の玉のように飛び交っていたが、ここに不動尊を建立、供養したところ、火の玉がおさまったといわれ、こんな所以から『火の玉不動』と呼ばれるようになったようです。

一方、『お女郎地藏』の話は、大宮宿の飯盛り旅籠で働いていた、街道筋でも評判の美形姉妹で、姉が千鳥、妹が都鳥という二人のことです。

親に捨てられた姉妹の姉の方には旅籠の主人も認めた恋人がいて、夫婦の約束も交わしていましたが、この旅籠の主人は病弱で薬種代(いまの医療費)の借財を残して亡くなってしまいました。

姉妹は、この返済のために、旅籠に身を沈めて働いていたのですが、美形の姉の千鳥には様々な男共が現れ、身請けしたい者や、一夜をともにしたい者などが次々に出てきたのです。

この中には大泥棒の神道徳次郎という悪党もいて、身請けとか、俺の言うことを聞けとの無理難題。千鳥は返事もできず、延ばし延ばしにしていたところ、徳次郎は旅籠の客に喧嘩を吹かけたり、店に火をつけるなどと脅したりする始末。

千鳥は、これ以上は店に迷惑はかけられないと、とうとう高台橋から鴻沼導水路に身を投げたのでした。こんな哀れな千鳥の霊の供養のために地藏尊が建立されたのが、この『お女郎地藏』とのこと。

先にも触れましたが、この界限は刑場跡であり、獄門台などがあったのです。そして、明治のはじめ、明治天皇の武蔵国一ノ宮氷川神社行幸に際し、地元から行幸の道筋に獄門台が存在するのは不浄とのことで、撤去されたと記録されています。

江戸時代には、各地の刑場は見せしめのため、街道筋に設けられ、犯罪の抑止に一役買っていたようです。

私もボランティアとして、地元の小学生や、さまざまな団体の方々に、このような説明をさせていただきました。現代っ子への説明には、言葉の壁がありました。つつい尺貫法が出てしまい、あわててメートル法に換算したり、遠方から、定年退職後に街道めぐりをされている方に旧街道の方向を尋ねられたり…

難しい質問をされることで、文献を調べ、新しい知識を学んだりすることも、自分のボケ防止になり、よい刺激とさせていただいています。

私の居住地周辺が刑場跡という因縁があって、親や地元の有志から引き継いだ石仏供養からつながる歴史や自然などに親しむ環境が身の回りに存在していたことが、いま、歴史に興味と関心をもつようになったきっかけです。

中仙道沿いには、まだまだ多くの史跡が眠っています。これからも、このようなところを散策し、ますます、歴史に親しむ日々を送りたいと思っています。

友の会ピックアップ

1.今後のイベントスケジュール（友の会が主催でないものも、含みます）

- (1) 9月30日(日) 当会主催・講演会「渡来人・壬生吉志福正」 ☆
講師 群馬大学名誉教授 森田 悌先生
- (2) 10月6日(土)～11月18日(土) 博物館主催・特別展「職人のわざとカタ」
～ものづくりの技術の一端をご紹介～
- (3) 10月28日(日) 博物館主催・上記特別展関連記念講演会「ものづくりは楽しい」(仮題)
講師 漫画家 たなかじゅん先生
＝博物館へ電話048-645-8171 または電子申請で申し込み 10月10日迄＝
- (4) 10月28日(日) 当会主催・見学会「奥武蔵・秋めぐり」 ☆
飯能市を中心として、文化財をめぐる
- (5) 11月11日(日)～13日(火) 当会主催・見学会「日本の仏像ベスト10を見るツアー」 ☆
林 宏一・元館長が選ばれたベスト10のうち、七つを見る旅です
- (6) 12月2日(日) 当会主催・講演会「C14による弥生時代の年代測定とその影響」
講師 国立歴史民俗博物館教授 藤尾慎一郎先生
- (7) 12月8日(土) 博物館主催・歴史民俗講座「古墳から出土した勾玉について」
講師 博物館 中山浩彦先生
＝11月8日(木)から電話受付 048-645-8171 定員150名

上記の当会主催イベントのなかで☆のマークがついているものだけが現在ご参加募集中です。それ以外のお申込みは、このニュースで詳細発表までお待ちください。博物館主催のものは博物館へ、

2.当会のクラブ活動について

今年度の当会の新規事業としての「クラブ活動」の状況につきましては、現在、次のとおりです。

- (1) 映像クラブ 参加希望の方も多く、まもなくの発足が見込まれています。
ビデオなどの映像にご関心がある方なら、どなたでもご参加いただけます。
デジカメ撮影程度の技術で十分。地域の歴史、民俗の映像化を目標に、勉強会や共同の撮影・上映を楽しみましょう。
お申込み・おたずねは筑井信明 (pu8n-tki@asahi-net.or.jp) さんへEメールで。表題を「友の会映像クラブ入会の件」として、本文にご住所・お名前・会員番号を記入してお送りください。
- (2) 古文書クラブ ご希望の方が少しずつ増えています。まずは、講師になっていただける方が必要なので、探しています。お心あたりの方がおられましたら、友の会へご一報を。

3.ミニ講座について

10月から実施する予定です。乞うご期待！

4. サポーターさんの募集について

当会ホームページ・ブログを作るのをお手伝いしていただける方を急ぎ、求めています。パソコンメールをしておられる方なら、まさに最高！ 男女を問わず、手をお助けください。あなたのオチカラが友の会の役に立ち、博物館のために役に立ちます。ぜひ、友の会まで、ハガキでお知らせください。詳細ご連絡させていただきます。

友の会の奈良ツアーは、ひと味違った知的な見学会

友の会・奈良ツアー

友の会で二度目のお泊り見学会も、友の会の名に恥じない、チョッとユニークなツアー。元埼玉県立博物館館長の林宏一先生が、日本の仏像の中から、これだけは見ておいてほしいと選ばれたベスト10をできるだけ多く見る旅。特別公開の興福寺<無着・世親像>をふくめ七つが見られます。

○第一日・11月11日(日) 東京駅(9:03発)～新幹線～京都駅(11:48着) (昼食は駅弁)

見るのは＝奈良市・東大寺戒壇院<四天王>・東大寺ミュージアム<不空けんじゃく観音(元・三月堂)>・南大門<金剛力士>・興福寺・国宝館<阿修羅・山田寺仏頭>・興福寺・北円堂<無着・世親像>・奈良国立博物館

○第二日・11月12日(月) (朝食は喫茶店・モーニングサービス) ホテル(8時半発)

見るのは＝・薬師寺<薬師三尊・聖観音>・唐招提寺<ル舎那仏・千手観音>・法隆寺<釈迦三尊・救世観音・百済観音・夢違観音>・中宮寺<弥勒菩薩>・法輪寺<薬師如来>・法起寺

○第三日・11月13日(火) (朝食は喫茶店・モーニングサービス) ホテル(8時半発)

見るのは＝・京田辺市・観音寺<十一面観音>・六波羅密寺<特別開帳の国宝十一面観音>・高尾神護寺<薬師如来>・太秦広隆寺<宝冠弥勒菩薩・泣き弥勒菩薩>～京都駅(17時ころ) 京都駅(18:29発)～東京駅(21:10着) (夕食は駅弁)

※今回、ベスト10のうち、見られないのは・大阪観心寺・如意輪観音・宇治平等院・阿彌陀如来(鳳凰堂修理中のため)・円空仏(特定のものではない)

※ホテルは2泊とも、ビジネスホテル・シングル ※第一日昼食と第三日夕食は駅弁。その他は外食。

※三日とも歩く部分がかなりありますので、恐縮ながら、お足不自由な方はご参加をご遠慮ください。

※見学地、順序、時間を変更する場合がありますが、ご了承ください。 ※ご案内は宮川進があたらせていただきます。

参加費 73,000円(交通費・宿泊費・食費・拝観料・保険料など一切) 定員 27名

ご参加お申込みは会員とご家族・お友達に限定。9月25日(火)までにお名前・住所・年齢・電話番号・会員番号を明記し、ハガキ(参加希望者1名につき1枚)で、〒343-0041 越谷市千間台西2-17-16 宮川進へ。お申込み多数の場合は抽選を行わせていただきます。出発までに仏像に関する勉強会を実施します。

奥武蔵・秋めぐり

この秋の思い出に… あの暑い夏を乗り切った、ご自分へのご褒美に…
なかなか行きにくい飯能へ、みんなで仲良く出かけましょう！

集合 JR大宮駅西口・大宮ソニックビル背面北側

午前7時30分

コース 大宮＝

＝飯能市郷土館

「飯能の山岳寺院」(仮題) 特別展見学

- ・高山不動尊・木造軍荼利明王立像(レプリカ)
- ・子ノ権現・木造子の日丸坐像、木造阿字女坐像
- ・竹寺・鉄造大日如来坐像

＝能仁寺＝智観寺

庭園など拝観 飯能戦争の痕跡

＝岩殿観音窟＝福德寺阿弥陀堂

爪書き不動尊などもー 建物は国指定重要文化財

＝大宮

<帰着6時半予定>

参加費 6000円 (バス代・昼食代・拝観料など一切)

◎ご参加の方は軽装・お飲み物ご持参をお願いいたします。

◎ご参加お申込みは10月22日(月)必着、ハガキに、住所・氏名・会員

番号・電話番号を明記し、〒330-0841 さいたま市大宮区東町2-4 金子清敏へ。

会員・ご家族・お友達にご参加可能。座席についてのご希望、集合地地図を

ご希望の場合は追記ください。当日緊急連絡先 090-6538-5935 金子

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会